

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年1月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270400373		
法人名	特定非営利活動法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム 伊豆の家		
所在地 (電話番号)	伊豆市吉田501-1	(電話) 0557-44-5830	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年9月24日		

## 【情報提供票より】( 20年 8月 20日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8 人, 非常勤 10人, 常勤換算 14 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
	または1日当たり 690 円		

### (4)利用者の概要( 8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	伊豆高原クリニック、伊東市民病院等
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年目を迎える。利用者の尊厳を大切にしたい個別サービスを提供し、利用者及び家族の信頼を得ている。また積極的に地域へ働きかける事で、徐々に地域住民との関わりを深めてきた。近くにスーパー、学校、公園などがあり環境にも恵まれている。また、敷地内には広い家庭菜園があり、そこで採れた野菜が食卓に上る。管理者・職員は、共に高い理想を持ち、その実現に向かって率直に意見交換し、働きやすい環境を作っている。職員それぞれの持ち味を活かしながら、利用者に喜ばれる施設作りを続ける姿は、今後更なる発展を期待させる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価結果を受け、重要事項説明書の苦情申し出先について明記した。同業者との交流もグループホーム、小規模部会を月1回設け、見学会を行い、意見交換を行う等の交流を深めている。市担当者とも連絡・相談を重ねている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価を行い、管理者が取りまとめ全員で内容を検討した。評価の意義を理解し、現状を振り返る機会として活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催している。運営者・管理者・地域住民・家族が参加し、意見交換を行っている。出された意見は、真摯に受け止め業務の改善に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係は、良好で信頼も厚い。地元の利用者が多い為、家族の訪問も頻繁にあり、行事への参加も多い。家族が来訪した際は、日頃の様子を伝えると共に、苦情や不安は無いかな確認し、運営改善につなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>行事は、地域の方にも参加してもらえるよう呼びかけている。また近隣の小学校と協力してホームが「かけこみ100番」となり、小学生が気軽に立ち寄れる場所となっている。地域で行われる区民祭では、専用の席が設けられ、利用者が参加できるプログラムが組まれるなど、嬉しい反応が見られている。管理者は、地区の老人会へ参加し講演会を行う等、ホームへの理解につなげている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着し、開かれた施設を目指し、独自の理念を掲げている。その中でも、特に利用者の「尊厳」を大切に考えている。ホームの理念は、玄関正面に掲示され、常に念頭に置きながら業務に従事している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は朝礼で理念を唱和している。管理者は、折に触れ説明を行い、全ての職員が理解できるよう努めている。職員の中にも、共通の理解ができている事が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より、積極的に地域住民に働きかける事で徐々に関係を深めてきた。ホーム内で行われる行事や研修への参加を呼びかけたり、老人会等に出向き講演を行っていく中で、住民の理解を得てきた。最近では、区民祭に利用者が参加できるプログラムが用意されるなどその成果が見られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、ありのままを見てもらい見直しの機会へ繋げようと前向きに取り組んでいる。今回の自己評価は全職員が行い、管理者が意見をまとめた。外部評価については、入社時にも説明している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的開催し、地域住民、民生委員、市職員、家族等が参加している。以前利用者の参加も試みたが、参加後利用者の不安をあおる形になってしまった為、現在は参加を見合わせている。会議では、近況報告や意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのケアマネージャーが運営推進会議以外にも連絡を取り、意見交換やアドバイスを受けている。また市の指導の下、地域密着型サービスの会が定期的開催され、管理者が部会の部長を務め、サービスの向上を目指した話し合いが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来訪した際は、日頃の暮らしぶりを報告すると共に、新たな意見が無いか確認している。金銭管理については、それぞれの家族と話し合い、利用者に合わせて対応をしている。家族との関係は良好で、行事等への参加も多い。また、家族からの信頼の声も厚い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けている。意見箱には、家族だけではなく利用者からも意見を貰う事があり、出された意見に対して、改善するよう努力している。前回評価で指摘された重要事項説明書の中には、苦情相談窓口を記載し改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、ユニット間で行われ、馴染みの関係ができていく。職員の諸事情に合わせて、勤務調整を行ったり、個人面談を設けて、要望や相談を受ける等、離職者を減らす努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、それぞれのレベルに合わせて、内部・外部研修に参加している。また資格取得を望む職員に対して、勤務調整を行う等協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊東市のグループホーム、小規模多機能施設の合同部会を2ヶ月に1回行っている。合同部会では、情報交換や見学会も行っており、見学会は、管理者だけでなく職員も参加している。また、介護保険施設代表者会議にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから入居に至るまでは、何回も話し合いを重ね納得して利用してもらえるように配慮している。その後家族と共に利用者に来所してもらい、ホームの雰囲気体験してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりに合わせて、互いに受け止め、支えあえる関係を築いている。職員が利用者から生活の知恵や作法など学ぶ事も多く、そうした暮らしの中で、利用者の生き生きとした姿が多く見られる事を職員も共に喜び、楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時アセスメントを作成し、利用者の生活に対する要望や家庭での生活、こだわり等を把握するようにしている。利用者一人ひとりの意見を尊重した考えを大切に、入居後も担当者として新たな要望がないか確認し、見直しを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が作成したケアプランを基に、担当者には具体的な介護計画を作成する。ケアプランの内容を実施した際は、項目と状態を記録し、次回の見直しに役立てている。ケアプランは常に確認できるようにファイルされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標の期間は、概ね1年とし、状況に合わせて年4～5回見直しを行っている。見直しの際はカンファレンスを開き、関係者の意見をまとめ新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の満足感を第一に、個別ケアに重点を置いて柔軟に対応している。今後グループホーム内で少人数のデイサービスを行うことを検討している。在宅からグループホームへの住み替えの際も利用者の負担が少なく、また在宅で生活を継続する上でも、多様な選択肢に応じて行きたいと考えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2箇所の協力医から、利用者の状況に合わせてかかりつけ医を選択できるようにし、また月2回の往診も受けられる。その他、ホームには2名の看護師がおり、24時間体制で対応している。また一人ひとりに合わせた薬の調整や服用量の見直しにも力を入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケア対応指針を作成し、入居時に説明している。家族からは、終末期ケアを希望される方も多く、何度も話し合いを重ね、全員で対応方法を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけは、尊厳を損ねないように十分配慮され、朝礼などで繰り返し指導している。個人情報の取り扱いについても、利用者及び家族の理解を得て、適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人ケアを大切に、それぞれに合わせた対応を行っている。散歩等も希望に合わせて行っており、ADLの向上に繋がっている。マンツーマンの対応も、できる限り行っており、利用者が気持ち良く生活できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食事作り、配膳、片付けを職員と利用者が協力して行っている。使用する野菜は、家庭菜園で作られた自家製のもので賄われている。利用者のできる力を活かして対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、午前・午後のどちらかで、利用者の希望に合わせて対応している。前回評価で期待したい内容として、夕食後の入浴が挙げられたが、現状では希望する利用者がいない為行われていない。浴室には通常の浴槽の他、シャワー風呂も設置されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味の時間が持てるようになっている。利用者から、しつけ・作法・米の研ぎ方・食器の洗い方等経験を活かした指導を受ける事も多く、生き生きとした生活が伺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最低1日1回は外の空気に触れる事ができるように対応している。希望があれば、喫茶店や公園などへも出かけ、気分転換を図っている。玄関先にはベンチが置かれ、日光浴もできる。ホーム周辺は交通量も少なく、ちょうど良い散歩コースとなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠を行う事の弊害について、十分理解し、基本的に施錠は行わず、自由に出入りができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月2回様々な場面を想定し、自主避難訓練を実施している。その他年2回消防署・警察立会いの下、防災訓練を実施している。各協力機関には、入居者名簿を配布し、運営推進会議を通じて、地域住民にも協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者と職員と一緒に食事を摂る中で、水分量や食事量を確認・記録し、栄養のバランスを考慮している。個人の状態に合わせ、不足しているようであれば、途中で補給できるように対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂スペースには、ソファやテーブルを用意し、気軽にお茶を飲んだり、面会者と語らう場として利用されている。十分な広さがあり、喚起等にも配慮されている。トイレや居室のドアは、混乱を招かないように、文字や装飾で区別している。廊下には、行事等の写真などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン以外のものは、全て利用者が今までに使い慣れた物を持ち込んで使用している。できる限り在宅で過ごしていた雰囲気近づける事で、大きな環境の変化がないように配慮している。		